

令和 5 年 7 月 5 日

## 『Team Teachers in Japan』の出版

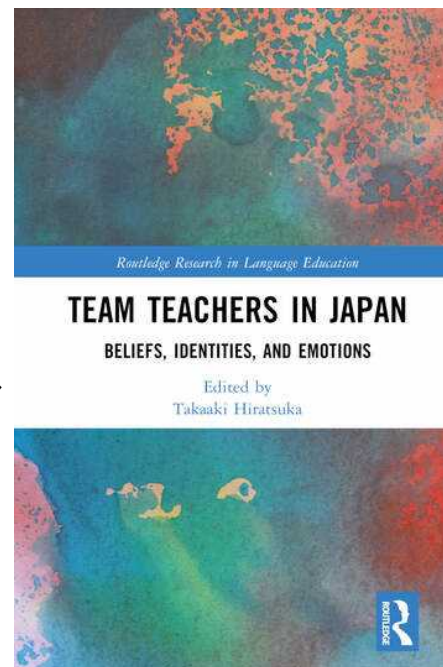
行政政策学類の真歩仁しょうん教授（他 15 名）が、これまで日本の小・中・高校の英語授業におけるチーム・ティーチングについて研究成果をまとめ、イギリスのラウトレッジ（Routledge）から『Team Teachers in Japan: Beliefs, Identities, and Emotions』（平塚貴晶編）を 7 月 14 日に刊行します。真歩仁教授が執筆した第 14 章では、小学校 5・6 年生を担当する 1800 名以上の教員に行った調査結果について論じています。

執筆した「Straight talk about English from primary school homeroom teachers」という章では、2013 年に小学校 5・6 年生の担任教師（1802 名）を対象に実施した、英語授業に関する信念について再分析しました。その中で、自由記述式の回答からは、「これまで役に立ったもの、または人」「英語を教科化するために必要だと思うこと」「英語の授業が導入されてからの子どもとの関わり方の変化」

「成功した授業（失敗した授業）」「英語教育の改善に関するアイデア」といった事柄について、貴重なデータを得ることができました。中でも記述の仕方として、感嘆符で終わる記述、極端にネガティブまたはポジティブな言葉（例：「もったいない」、「すごい」）を使ったもの、強い意思を示したもの、勤務環境の改善を要請するものなど、これまで見過ごされてきた感情に関する内容を取り上げながら論じました。

（表紙のイメージは以下から）

<https://www.routledge.com/Team-Teachers-in-Japan-Beliefs-Identities-and-Emotions/Hiratsuka/p/book/9781032265841#>



（お問い合わせ先）

行政政策学類・教授 真歩仁しょうん

メール：mahoney@ads.fukushima-u.ac.jp